

## ソフトウェア技術者のキャリア志向、 職務満足とコミットメント

——日中間ソフトウェアオフショア開発における人材問題の解決に向けて——

張 聖 慧

近年、日本と中国の間に、ソフトウェア開発の協力は急速に増えてきている。その協力体制の最も一般的な形は、オフショア開発である。日中間ソフトウェアオフショア開発の拡大とともに、人材問題も顕在化してきている。これらの問題は、具体的に2つにわけられる。その1つは、ソフトウェアオフショア開発を担うハイレベル人材の供給不足である。その対応として、中国政府は有力な人材育成政策を打ち出し、人材供給の状況は徐々に好転してきている。もう1つは、日中間で行われる共同開発における人材マネジメント問題である。先行研究において、その原因が文化のギャップから生まれるマネジメントの不調和であることが指摘されている。これを受けて、異文化間の協力やコミュニケーション問題の解決に関する多くの研究が行われている。

しかし、前述したように、日中間ソフトウェアオフショア開発を担う人材は、ハイレベルの人材である。なぜなら、両国間での共同開発を遂行するために、ソフトウェア開発の能力と両国文化、言語の差異を理解する能力が同時に求められるからである。こうしたハイレベル人材のマネジメント問題を解決するために、先行研究にみられた文化の差異、コミュニケーションの問題だけではなく、ハイレベル人材の特徴に注目すべきだと考えられる。

このため、本研究では、こうしたハイレベルのソフトウェア技術者の特徴に着目して、その人材マネジメントの問題に対して有意義な解決策を見つけ出すことを目的とした。

まず、ソフトウェア技術者をソフトウェア開発のプロフェッショナルと考え、プロフェッショナルの職務態度や職場行動に関する先行研究をレビューした。また、日中間で行われるソフトウェアオフショア開発に関する先行研究をレビューし、その開発体制の特徴から、ソフトウェア技術者の特徴を探った。

その結果、ソフトウェア技術者は、プロフェッショナルとして、専門領域への信念、関与を強く持つという特徴を有することが分かった。その一方、ソフトウェア開発のプロセスや体制には、組織とのかかわりや協力も要求されているため、ソフトウェア技術者は仕事を進めるために組織への関心やコミットメントも高めなければならないことも分かった。こうした特徴を、本研究では、ソフトウェア技術者の多様性と呼んでいる。ソフトウェア技術者のキャリア志向の多様性によって、コミットメントと職務満足の関係が異なることを前提として仮説を構築し、当該仮説の検証を行った。

その結果、ソフトウェア技術者のキャリア志向が職務態度に影響を与えていることが分かった。具体的には、ソフトウェア技術者の職務満足とコミットメントとの関係に、キャリア志向がその強弱に影響を与えていることが検証された。したがって、日中間で行われるソフトウェアオフショア開発の人材問題を解決するためには、ソフトウェア技術者のキャリア志向を把握した上で人材施策を施行していくことが求められると考えられる。

なお、本研究で、日中間ソフトウェアオフショア開発の人材問題において、今までの先行研究にないソフトウェア技術者の特徴に焦点を絞って解決策を見つけ出した。しかし、日本と中国の間に行われるビジネス協力である以上、両国間の文化、言語の差異を忘れてはいけない。ソフトウェア技術者の特徴に、両国間の文化ギャップが影響を与えているはずである。したがって、今

後は，ソフトウェア技術者の特徴と異文化摩擦を総合的に検討していくことが必要になろう。